

# 守る会NEWSLETTER

URL:<http://homepage3.nifty.com/save-teiji/>都立定時制高校を守る会・連絡会

連絡会事務局発行

## 3/14守る会集会～(豊島区民センターにて)

### 「定時制を卒業してたくましく生きる」～そのまとめ～

3月14日、恒例の「守る会」のイベントが開かれました。今年は、定時制を卒業した生徒たちに来てもらい、その後どう生きているかについて交流するという企画でした。また、年末年始にかけて「派遣村」がクローズアップされましたが、卒業生の労働実態についてコメントしてもらおうと言うことで、青年ユニオンに関わっている弁護士さんにも来ていただきました。

守る会の寺川副代表の司会ですすめられ、冒頭に守る会の森代表があいさつ、その後都高教定時制部長の斉藤氏からあいさつがありました。その後、事務局の加藤氏から「いま、夜間定時制はどうなっているか」と題した報告があり、今年の一次試験の状況も含めて話がありました。

そしていよいよ、メインのパネル・ディスカッション。3つの学校から5人の定時制卒業生がパネラーとして参加。大能コーディネーターの軽快な仕切りで話がスタートしました。以下にその概要を記します。

**大能：**コーディネーターの大能です。まずは4人（後に5人）のパネラーから、簡単に自己紹介をお願いします。

**Aさん：**K定卒業です。今、K市の社会福祉会館で障害児の指導員をしています。K定に入る前はN定に入ったがすぐやめた。アルバイトをされていて、18歳の時K定に入りました。

**Bさん：**M定卒です。私立の全日制に入ったが1年半でやめた。アルバイトをしていたけど、21歳ぐらいの時M定の2年に編入しました。今はトラック・ドライバーをしています。

**Cさん：**同じくM定卒。全日制に入ったが1年途中でやめました。20歳ぐらいの時M定に入学。B君とは中学も一緒です。今は友人の会社で外構工事をしています。

**Dさん：**T定卒業。やはり一度高校をやめて18歳の時T定に入りました。今は内装の現場で働いています。在学中からこの仕事をしてきました。

**大能**：皆さん、どんな高校時代だったの？まずはその話から。

**Dさん**：楽しかったね。さっき、交通費がなくて学校に来られない生徒がいるという話があった（後半の加藤報告①参照）けど、オレの場合、在学中から現場で仕事してたから、あちこち遠くへ行くわけよ。例えば千葉とかで3時頃に仕事をあがって、それから学校に行くと1800円とか交通費がかかるけど、それは自分持ち。でも、やはり学校に行ってた。楽しかったから。オレ、いろんなこと計画するのが好きでね、毎年人を集めて、1万円で2泊3日の旅行を計画していた。1万円以内で自炊を2泊3日やりきるの。

**Cさん**：一年目は、年齢が上だと言うこともあって、なかなか馴染めなかった。でも2年になり、中学からの友達のBも編入してきて、楽しくなったね。バスケット部に入って活動したり・・・修学旅行も楽しかった。

**大能**：どこに行ったの？

**Cさん**：沖縄です。

**加藤**（元担任）：沖縄では夜騒ぎすぎて、次の朝気分悪くなったこともあったよね。（笑）

**Bさん**：自分の場合は、そうですね・・・自分で行きたくて高校に行ったわけだし、楽しかったですよ。

**Aさん**：地元の高校だったので後輩がいて楽しかったね。飲み会やったり、修学旅行も楽しかったし、生徒会長やっていたんだけど、生徒会合宿も良かったな。楽しい空間って、自分で作るものだと思うんだよね。今でも、子どもたちを連れてキャンプに行ったりしてるんですよ。何かをやる楽しさっていうのかなあ、そういうのいいよね。

**大能**：それじゃ、皆さんの仕事の話に入りましょうか。Bさんはトラック・ドライバーをやっているということだけ・・・。

**Bさん**：そうですね、長距離じゃなくて東京近辺を回っているんですけど、配送をしています。結構きついですね。例えば朝の3時に出て、帰ってくるのが夜の11時とかだったりして、ほとんど休みなく仕事している感じ。



**Dさん**：オレ、コンビニのバイトとかピザの配達とか、浄水器の訪問販売とかいろいろやったけど、その中で、「頑張れば結果はついてくる」という思いがあるね。今は内装をやってるけど、モノ造りをしているという実感がある。

**Cさん**：今は外構工事をやっているけど、その前は5年間、光ケーブルの仕事をしてたんです。ケーブルを電柱の上でつなげるのね。いろんな面で安定はしているけど、でも給料が上がらずむしろ下がる傾向にあって・・・。それと、正規の職員じゃなくてもケーブルをつなげるんです。そういうのって、だいたいぐちゃぐちゃなつなぎ方なんだけど、でもつ

なければOKになる。それでも同じ金になるわけ。やりがいがいマイチ・・・という感じでやめました。今は工事関係の資格を取りたいなってる。

**Aさん**：6年間ぐらいファミレスやった。調理の仕事につきたいと思ってたし。でもやめて、友達と一緒に不用品回収業をやって、そのあと半年かかって会社を立ち上げたんだけど、半年持たなくて倒産。そこにK市の若葉会というところがやっている障害者の喫茶店を手伝わないかという話があって、そこで指導員をやってます。その学童の指導員もやってます。調理師以外に保育士にもなりたいという希望があったしね。障害者の方と接するのはすごくおもしろい。障害を持っているので、何か、全然成長しないっていうか、「進歩」がないように見えるんだけど、でもよく見ると少しずつだけ変化が見えてくる。些細なことなんだけど・・・そう、例えば、チャックを閉められるようになったとか。そういうことに触れるとすごく嬉しいし、やりがいをすごく感じるわけね。



**後藤**：ちょっと質問なんだけど、みんな、中卒じゃダメって思ってるのかな？高校卒で良かったって思うことあるの？それと、今やってる仕事はあるわけだけど、今後どうしていきたいの？つまり、自分にとっての「満足度」っていうか、「こうなればいい」「こういう仕事ならやりたい」っていうものは何なのかなあ。

**Eさん**(途中から参加・T定卒業)：必要だと思います。私は高卒で就職したけど、高卒しか求人しない会社もあるから。

**Dさん**：やる気があれば、中卒でも高卒でも関係ないね。

**Aさん**：そうね。それと、分野によるよね。そんなの関係ないっていう分野と、大卒でないと出来ない仕事とか、やっぱ高卒じゃないと、みたいなこと言われるところもけっこうあると思う。

**加藤**：Cさんは、光ファイバーの仕事をやめたわけだけど、「満足度」があまりなかったということなんだろうか。

**Cさん**：そうですね、あまり給料が上がらないし、先輩に聞いても、同じようなこと言ってたし・・・。

**後藤**：会社に入るとき、「定昇」はあるって書いてあった？定期昇給があるかどうか。

**Cさん**：ええ、・・・「定昇あり」って書いてありました。確かにあったけど、数年間で数千円上がるぐらいで、将来に不安がありましたね。

**後藤**：残業代、出た？

**Cさん**：・・・一応、まあ。

**加藤**：Bさんは、トラック・ドライバーの前は、確か不動産業で・・・。

**Bさん**：そうですね、だいたい午前中は勧誘の電話を片っ端からかけていくんです。それが終わると戸別訪問をずっとやります。夜中の1時でも戸別訪問やるんです。人の迷惑も考えずやるんです。出来高で評価されるから、とにかく契約を取らないことには、いつまでも働かされますね。朝の9時から仕事を始めて、次の日の朝7時までぶっ通しで働かされることもありましたから。これじゃ自分がダメになると思って、やめるって申し出たんですけど、これがまたなかなかやめさせてくれないんです。3人ぐらいの上司とかかけあって、やっとやめさせてもらえましたけど。

**大能**：大変な実態ですね。Bさんは本当のところ何をやりたいの？

**Bさん**：えっと、本当のことという、教師やりたかったですね。中学の教師。でも大学行かなくちゃいけないし、今はちょっと無理だけど。

**Aさん**：オレ、将来飲み屋をやりたいと思ってる。

(身内から、「色々やりたいことあるのね」との言葉が・・・。明るい笑いに包まれて・・・)



**大能**：それじゃ、この辺で弁護士さんのお話を。

**弁護士**：私は都立T高校を90年代に卒業して、今、青年ユニオンの弁護士をしています。青年ユニオンというのは個人加盟の組合で、一人でも入れます。何か問題があって、会社と団交があるとかいうと、皆さんにメールなどで連絡が行き、参加できる人が参加する、という形態を取っています。「ショップ99」というコンビニで、「名ばかり店長」をさせられた例があります。「店長」になったため、残業代が出なくなった、給料もダウン、ということで、みんなで運動をして不当なやり方を撤回させました。皆さんの話を聞いて、いろいろ問題を感じました。出来高で給料を決めるのは違反です。残業の不払いもちろん違法です。また、皆さんの話を聞いて、「働くことの意味」「仕事の意味」を改めて考えさせられました。

・・・集会終了後、有志で二次会に繰り出しました。パネラーをした卒業生5人も全員参加。大いに盛り上がりました。途中、集会には間に合わなかったけど、二次会には間に合った卒業生がさらに一人加わり、楽しいひとときを過ごしました。皆さん、お疲れ様。何らかの形でまたお会いしましょう。

(参考までに～)

## 今、夜間定時制の現場はどうなっているのか

09/3/14

守る会事務局・加藤（立川定）

- ① 立川高校定時制の状況について・・・八王子の定時制4校が募集停止になった07年2月の入試で、立川定時制は久しぶりに一次で定員を超えた（90人定員に102人が願書提出）。その後は、1次で満杯になることはないが、2次では定員を超え、不合格者を出している。八王子は、立川から比較的近いとはいえ、1時間ぐらいかかって通う生徒も少なくない。そのため、アルバイトをするにも時間的に制約される。また、遠くなれば交通費がバカにならない。定期を持たず、回数券などで来る生徒もいる。その中で、交通費が捻出できず、「学校に行けない」と訴える生徒もめずらしくない。実際、私のクラスのある生徒は、自宅から八王子駅までバスで行かなくてはならず、そのバス代が出せないと言って、しばらく学校に来られない時があった。
- ② 06年5月時点で、立川定の1年生の住所の分布では、立川市在住が25人、八王子市が6人である。07年5月時点では、それぞれ24人、14人となり、08年5月では、それぞれ20人、21人となり、八王子市在住がトップに躍り出た。09年度はどうなるか。
- ③ 労金が毎年、一人親家庭に対して5万円の奨学金を出している（全都で200人か？）。立川定でも応募する生徒が急増。昨年度は応募数が全学年で数人だったが、今年度は20人を超えた。「当たった」のは3～4人だったが。東京都でも、給付型の奨学金制度の新設が急務である。
- ④ 定時制教育の根幹をなすとも言える給食。今一食350円程度なのだが、それが払えず、コンビニにたむろする生徒も少なくない。一方、都は外部調理方式（デリバリー方式）を町田など一部の定時制に導入し、単価も値上げしている。また、現在、有職者の場合や、無職であっても求職証明を出した生徒に対しては、教科書や給食に対して補助金が出ている。しかし、今後、補助金を受ける資格基準を一層厳しくして、できるだけ受給する人数を減らす方向を都はもくろんでいる。
- ⑤ 統廃合により、多くの定時制、全日制高校が減らされた。八王子でも、100年以上の伝統を持つ八王子工業と第二商業が統廃合され、桑志高校という高校に変えられた。今、各学校とも、「〇〇支援校」とか「〇〇重点校」などの「特色」を無理やり出させられる中で、八王子の都立高校も、「純粹」の普通高校はほとんどないといっている状況。地域で高校を育ててゆくことがますます出来にくくなっている。
- ⑥ 全国で教員免許制度が始まり、10年ごとに更新しないと免職になるという事態。教員の管理制度が強まっている。一方、小学校で英語が導入され、資格もないのに担任が英語を教えざるを得ない。これはひどい矛盾であり、「おかしい」という世論を盛り上げていく必要がある。

- ⑦ この間卒業判定会議があり、数十名の4年生の卒業が決まった。しかしその後、事務と管理職サイドから、「授業料等の未納の生徒が何人かおり、払われなければ卒業は認定できない」という発言あり。実際、ある年には、卒業が決まりながら、卒業式までに未納分を払えず、急遽、担任が立て替えて払うということが（公にはできないものの）実際あった。情け容赦のない学校になりつつある。
- ⑧ さらに、無遅刻無欠席の真面目なAという女子生徒が私のクラスにいるが、月末のある日、事務の方が私のところに来て、「Aさんは数ヶ月給食費が未納です。何回か督促をしているのですが払ってもらえません。このままですと、来月から給食をストップすることになります」と言う。私はびっくりして、その生徒を呼んで、やんわりと聞いた。彼女は、「母の給料日は25日なので、月末には払えると思いますが・・・」という。彼女も一人親家庭なのだ。とにかくストップされたらたまらない。私は郵便局でお金をおろし、2万円を彼女に渡し、「とにかく事務室に行ってこれを払ってきなさい」と促した。彼女は私の指示に従って2万円を払い、とりあえず給食をストップされることはなくなった。彼女は言う。「お金はお母さんにもらって来月払います。皆がいるところじゃ渡しにくいので、渡すのは放課後でいいですか」と。胸が痛んだ。その次の月に、Aさんは2万円を放課後そっと私に手渡した。昔は、払えない生徒がいたら、教師も事務の人もいろいろ相談し合って心配したと思う。今も、その気持ちはあるが、事務の人も支援センターに縛られて、身動きできない状況。個人の裁量など認められなくなっている。
- ⑨ 夜間定時制は、一部で不合格者が出るという状況もあるが、依然としてセーフティ・ネットの役割を果たしている。全日を退学になったり、ずっと不登校だったりした生徒たちのやり直しの場であり、同時にほっとできる居場所でもある。希望する生徒たちが全て入れる条件整備をするべき。このやり直しの場、人間の心がふれあえる場をこれ以上減らすことなく、さらに充実させていきたい。

## 異常事態～09年入試の二次募集

26日の定時制二次募集は異常でした。例えば、立川定時制は、20人の二次募集枠に対して60人が殺到しました。去年から導入された「取り下げ・再提出」の制度があるため、結果的には42人まで減りました。しかしそれでも2倍。結果的に20人近く不合格。

立川だけではありません。多摩地区では、ほとんどの夜間定時制で倍率が出ました（倍率が出なかったのは五日市定時制のみです）。23区ではそれほどではなかったようですが、それでも江戸川地区を始め、いくつかの学校で倍率が出ました。

去年は若干「沈静化」したように見えた定時制入試ですが、今年またもや一気に矛盾が吹き出した感じです。全日制の15学級増があったにもかかわらず、です。全日はどうだったのかも含めた総括・分析が必要かと思えます。都教委にぜひ対策を迫っていきましょう。